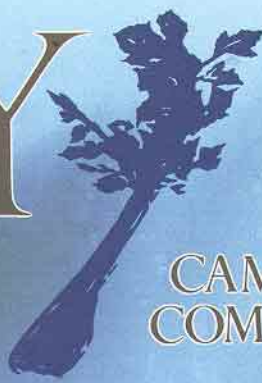


# CELERY



No. 8  
1991

CAMPUS  
COMMUNICATION

旅立ちのときともに  
新たな私が生まれます。

中村学園大学・中村学園短期大学／広報



# さわやかに走るシテイランナー

福岡シテイマラソン参加者の意識調査から

児童学科・幼児教育科

助教 田中浩子

最近、街角で多くのシテイランナーに出会う。「運動をする」単に労働や移動の手段としてだけでなく、それ自体を目的として実施することは現代生活を豊かに過ごすために欠く事のできないことの一つになってきた。今や日常生活の中での適度な運動の実施を否定する人はいない。しかし運動不足を感じている人が八割近くもいるながら、実施の割合は三割を下回るといふ状況である。

我が大学でも同様な状態で、この三月に終る科学研究の一端として実施した調査でも、七割の者が運動不足を感じていないが、ほとんど運動をしていない学生が八割を越えている。このような学生に対して一般教育の保健体育科目では、学生自らが運動実践者となることを目標の一つにかかげ、その内容をカリキュラムに盛り込み実施している。

体育部門では、運動の日常化に結びつく要因が何かを模索している。そこで、昨年度からは実際に習慣的に運動を実践していると思われるランニング愛好家の実態とその意識を、研究のテーマとして取り組んできた。ちょうど福岡市が市制百周年を記念して「福岡シテイマラソン」を開催し始めたこ

ともあり、福岡市の社会体育課の協力を得て調査が可能となった。第一回目の一昨年は女性ランナー（百九十七人）を、昨年十月末の第二回日には男性ランナー（二百五十八人）を調査することができた。ここにその結果の一部を紹介したい。

人々はどのようにして走るのか  
ランニングを始めた動機は男女とも「健康維持・増進のため」が最も多く（男六一・％、女七八・％）

次に次いで男子は「体力の増強のため」（三四・五％）であり、女子は「ストレス解消・気晴らしのため」（五九・四％）である。また「気軽にできるから」は男女とも上位にあげられている。事実、実施している場所は、男女とも一般道路が最も多く、実施している人数も男子は八割近く、女子でも四割は日頃一人で実施している。所要時間も二十分～六十分が最も多いという結果から、どこでも、一人でも、短い時間でできる気軽さをランニングは兼ね備えている。

ランニングは何をもたらしのか  
ランニングから得られたものとしては、「筋力や持久力がついた」（男五一・九％、女五七・四％）、「体の調子がよくなった」（男五七・

四％、女五五・三％）と動機に対応するものが最も多く、動機としては下位にランクされていた「仲間や友人が得られた」（男四二・二％、女五一・八％）が三位に上げられているのは興味深い。ランニングはとかく個人的な趣味として孤独な運動のイメージがあるが、集団的スポーツで得られるような人との出会いを作り出している。ランニング愛好家はどんな人々であったか

男性ランナーに対しては嗜好品として論じられることもある酒とタバコについても調査したが、酒については「以前から飲んでいない」人は二割以下であるが、タバコについては「以前から吸っていない」人は五割近くであった。また「以前は吸っていたが現在はやめている」人が三割を越え、喫煙率はわずかに二割程度で、最近の喫煙率六割程度と比べると、はるかに低率の結果を示した。喫煙の害についての理解がこのような結果になったと考えられる。

また女性ランナーのうち有職者は七割を越え、既婚者は六割近くであった。一日の中でうまく運動の時間を見つけ出している。



写真：福岡市社会体育課提供

上、現代生活の運動不足を健康の阻害因子として理解し、ランニングによる身体への期待が寄せられる事は当然であり、その結果は十分満足されている。また精神的な充実も期待され、その効果も十分満足されている。それだけでなく、社会的な効果も期待できるとなると、ランニングの習慣化は、学生にとって重要な学ばなければならぬものになってくるであろう。しかしながら本学の場合、ランニングに対しては「少し苦になる」「または「苦になる」学生は八割を越えている現状にある。案

に走っても十分な効果があるこの理論と、各自の体力に応じた楽しく走れるランニング法の体得を図る教育が我々の課題となった。なお、二年間にわたる研究の一部を昨年度は赤坂真理子（児童教育学専攻平成二年三月卒業）が、今年度は尾崎尚美（児童教育学専攻四年）が卒業論文としてまとめた。

参考文献

- (1) 厚生省「健康づくりに関する意識調査」一九九〇年
- (2) 古賀範雄ほか「女子学生の運動生活習慣に関する研究」中村学園大学紀要第22号「一九九〇年

# ごむでうごかそう

—教育実践の記録から—



松井和代

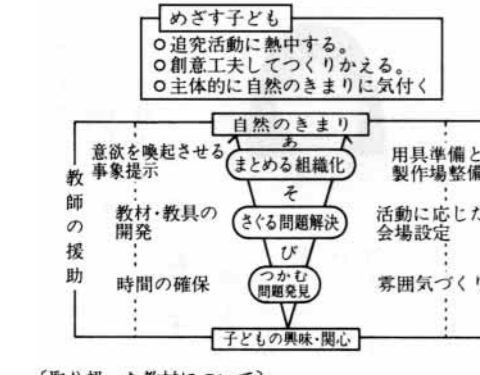
福岡県小郡市立大原小学校教諭  
(昭和63年3月、児童教育学専攻卒業)

この記録は、今年度福岡県公立小学校教員教育論文に応募、入選された松井さんの「楽しく追求し、自ら自然認識を深める低学年理科学習指導——遊びを連続的につないでいく活動を通して——」を要約していただいたものです。

希望と期待を胸に、入学してきた一年生の子どもたち。そんな子どもたちとともに、私は教師としての道を歩み始めました。泣いたり笑ったり、試行錯誤しながら、私も子どもたちも「一年生」として頑張りました。

研究のねらい 子ども一人ひとりが遊びに熱中し、遊びをつなぎ、連続発展させながら、自然のきまりに自ら主体的に気付いていくような学習指導のあり方を工夫する。

かむ)……問題の共通化、(さぐる)……交流等を通して具体的に思考を深めていく、(まとめる)……深化させ、新しいものを創造していく活動、を取り入れた。以上をふまえて、「ごむでうごかそう」の単元において実践していった。



- 第1次……ゴム(輪ゴム,12号,16号,18号,太い輪ゴム,平ゴムひも(衣料用),美容用ゴム)
- 第2次……ロケット  
○ゴムの伸びる力で動くおもちゃ
- 第3次……コトコトくん  
○ゴムのねじれによって動くおもちゃ



子どもたちは、作っては走らせる活動をくり返し、友だちと比べたり、教え合ったりしていた。ゴムを巻く回数、ゴムの長さ、ゴムの強さによるねじれ具合等、ゴムの性質に迫る発言が飛びかうようになったのである。

この実践を通して、ゴムという一つのものに対して遊びを連続発展させながら、主体的に自然のきまりに気付く、自ら自然認識を深めることができた、と言える。おわりに、一年間の初任研を通してのささやかな実践でした。これからも、初心を忘れず、研修に励みたいと意を新たにしていま

# 女性の風

(株)西日本銀行 取締役 緒方 世喜子



## プロフィール

昭和6年9月5日生まれ。帝国女子専門学校(現相模女子大学)経済科終了。婦人新聞記者を経て昭和38年西日本銀行(前身)西日本相互銀行にホームコンサルタントとして入行。関西以西で第一号の消費生活コンサルタントとなる。昭和61年西日本銀行取締役就任。国際ソロプチミスト福岡会長、福岡市女性センター常務理事、アミカス館長、福岡県消費者協会理事、福岡県社会福祉審議会委員など幅広く活躍。平成2年マエ・カール賞受賞。著書に「女の忘れもの」(梓書院)がある。

庭の一角に雑木やかん木が繁って、いる部分があつて、減多なことに足を踏み入れない。晴れた日曜日、黄色い小さなマリが転がっているのに気づき中にかがみこむよつに入り、ふと見上げる、目のとどろと、小鳥が巣をかけたらしく、中には、小さなタマゴが三つ、行儀よく並んでいるのを発見した。珍らしいものをみた思いで動悸がおさまらず、以後、ヒナがかえるまで見守り続けた。やがて、小さなヒナが嘴を開けて、親鳥から餌を与えられ、飛び方

を教えられて、いつの間にか巣立っていった。小鳥や動物たちの自立は感動的である。卒業は人間にとつての巣立ちで先生方や後輩から見送られ、学窓から飛び立っていく。卒業式は、そのせしめ、つまり儀式といえるのだから。学生生活は両親のひまわり、勉学に励めばよい、温かい巣であつたが、社会人になると環境は一変する。ひと昔のように、卒業しても就業せず、家事手伝いをしながら結婚を待つという女性は少なくなつた。それだけに雇用の場でも、女性の労働力は高く評価され、「男は仕事」から「女も仕事」の時代に入つていく。産業社会の発展、とりわけ技術革新による情報化社会への歩みが、男性、女性の性差の力べを崩壊させようとしている。総理府の「女性に関する世論調査」によると、「男は仕事、女は家庭」という伝統的な考え方に対し、「賛成しない」とする人が、今回の調査は、四割弱となり、そ

やらないで後悔したくない  
管理栄養士専攻 四年  
杉野 恭子



この傾向は、女性の高学歴化と共に益々増えていくことが予想され、卒業 就業は、あたりまえのパターンになっていくことと思われる。私がいた、キャンパスコミュニケーション、一九九〇年No.6「CELEBRITY」の中でも、大学、短大双方において、就業希望数は、圧倒的に高い数を占めていることもうかがうことができる。さて、季節は巡り、今年もまた、躍動の春を迎えた。卒業、入学、入社などと、社会には、フレッシュさんがあふれ、活気づく。働く会社人間として、私はこのシーズンが一番好きなきときである。それは学窓から巣立ってきたばかりの社会人としての未熟さと、初々しさを持った多くの社員が入社してくる。その新鮮さはいつも初心にかえれ、を思いおこされる。フレッシュさんは、これから、いろいろなることを経験し、成長していくことだろう。どんなときも、自分をみつめ、失敗をもバネに、大地に足をしっかりとつけ、精神的にも、経済的にも、社会人として、立派に自立した人間として、飛翔続けてほしいと願っている。いま時代は、「女性の風」が吹いている。

四年間の大学生活を振り返ると、この紙面では伝えられない、いろいろなことがありました。

入学してはらくたつた頃から、講義だけ受けて帰るのがつまらなくて、このままでは学校に来るのが続かなくなりそうに思い、美術部へ入りました。サークルに入ると友達はもちろん、先輩や後輩や先生方というように、自分自身の輪が広がり、味をしめた私は、代議委員会、運動会実行委員会、小児糖尿病サマーキャンプにも顔を出しました。いろいろやってみて中途半端ではなかつたろうかという思いもありますが、同じ目標を持った仲間と同じ感動を味わえたこと、また、自分と違った考え方を持った人達と会話できたことも私にとっては一番プラスになりました。それが学園生活を充実させてくれたものになったと思えます。四年間の学生生活の中で私の一番思い出に残るイベントは、アメリカでの一月のホームステイでした。高校生の時からの夢で、大学生のうちには出来ないとはい、サークルのない日は一生懸命アルバイトをして実現しました。私が参加したツアーは三十人ほどで、私と友人の二人以外はほとんど英文科の人ばかり。初めはともプレッシャーを感じました。スティー先ではスパーで材料をさがし日本料理を作つてあげたいへん喜ばれました。この時ばかりは、あのきつかつた調理実習が役に立ちともうれしく思いました。ホームステイとは、英語の勉強が出来ればよいということだけじゃないんだと感じました。このアメリカ行きはいろいろな意味でその後の私の考え方や物の見方に大きく影響したと思います。四年間、とにかくやりたい事をやって多くの経験をしてきた私ですが、その一つが現在の私のキャラクターになっていきます。大学の成績は決してよくありませんが、大学生活を悔いのないようにならなうと自信を持って言えます。まだ学生生活が残っている方は、やりたい事があればどんどん挑戦して下さい。私の場合はそれが失敗しても成功しても「やった」ということが自信につながりました。卒業して社会人になったら、学生の時ほど自由はきかないでしょうが、常に前を向いています。人間になりたいと思っています。

## 研究 学生生活総決算

〜平成二年度卒業論文テーマから(抜粋)〜

口で言つのは簡単だが、いざ実行するとなると、これがなかなか難しい。何から手をつけたらよいのやら。試行錯誤の末、やっと見つけたかすかな糸口。無我夢中、小さな小さなデータの集積が、しだいに大きな確かなものになりつつあることを確信したときの胸のときめき。研究することのおもしろさが、ようやく分かりはじめる。そして、やっと論文を書きあげたときの安堵感。発表も無事終了したとき、大学生活に一つのピリオドが打たれる。今年度は児童学科百五十一編、食物栄養学科四十四編の論文が報告された。これらの論文はすべて、貴重な財産として大学に残され、後に続く後輩に在るの資料として提供されることになる。

### 食物栄養学専攻

メロンの熟成度の非破壊検査法の開発  
栄養・運動による高脂血症の改善に関する研究  
大量調理における調理法の検討  
野菜煮物について  
集団給食の材料として利用されるチルド食品の衛生について  
光合成と低周波電場  
タケノコのグリコシターゼ  
市販鶏肉及び加工品のサルモネラ汚染実態調査  
市販食用加工油脂のVEおよび脂肪酸組成について  
真空調理法における調理条件の検討  
現代の食意識と行動の研究  
(日、韓調理形態の比較)  
スポーツマンの食事に関する研究

### 管理栄養士専攻

アシドーシス、アルカローシスの心臓作用  
血清中リポタンパク質(LDL・HDL)の精製とそれらの循環器疾患モデル動物における免疫組織化学  
栄養と運動が妊娠の経過並びに出産に及ぼす影響について  
クローン病治療食の研究  
血漿タンパク質を用いたホイー・フレッドの品質向上  
混捏方法による検討  
中高年者におけるナトリウムならびにカリウム負荷の24時間血圧変動に及ぼす影響  
栄養によるホルモン感受性の変化  
久山町における栄養疫学調査  
小児成人病実態調査  
多様な魚介類の利用  
障害を持つ幼児の食生活に関する研究  
柿の葉の調理とビタミンCの変化

### 児童学専攻

幼児期における手づくりのおもちゃとその役割  
零歳児から二歳児の発達と音楽について  
身体障害児のリハビリテーションについて  
幼児の言葉についての一考察  
大人の受け答えの重要性をふまえて  
非社会的行動を示す幼児に対する援助方法の研究  
幼児期における家庭のしつけについて 親の役割についての考察を中心にして  
生涯教育に関する一考察  
学が主体の変化の過程を中心にして  
問題をもちつ子どもの生育歴に関する一考察 事例を通して  
幼児期における子ども心の世界 絵本や素話などを中心として  
母親の養育態度と子どもの自立について

### 児童教育学専攻

男性教師・女性教師の特性に関する調査・研究  
福岡市における海外帰国子女の現状  
算数・数学科における学習ゲーム  
嫌いな科目が好きなになるキット  
カケをつくる学習ゲーム  
読解読書指導の考察 よき読書人を育てるために  
生活科新設の経緯とその目標の具体的究明  
自立への基礎を養うことの内容を中心にして  
兄弟関係が人格形成に及ぼす影響  
ふるさとをつくる一村一品運動  
大分県姫島村・上津江村において  
コミを造形素材とした表現研究  
その数台効果を探る  
教師の幸福感に関する心理学的研究  
児童の走行中の骨折について

## 元気なサークル 書道部 (5)



静寂の中に緊張感が漂う。静かに、そしてリズムカルに走る筆。日本の美を描く書道部。部室には墨の匂い、壁には『飛翔』『玄宗監國……』等。学園祭に出品された作品が掛けてある。部室は23畳で広く感じるが「17名の部員が全員揃っておけいこすると、窮屈なんです」と語る部長の矢野智加さん(大学食物栄養学専攻2年生)。入部の動機をたずねると「書道を通じ自分自身を鍛えること。そして友人を増やし、充実した学生生活を送りたかったから」と弾んだ声が出てきた。

練習の時は、好きなお手本を選択し、自分の個性に合った作品を仕上げていくという。部室は毎日開いているが、練習日は週3回、うち火曜日は、先生が教授して下さる日。筆は、いたちの毛、兎の毛、馬の毛と色々あるそうだが「私達は、始と混毛を使っており根元まで墨をたっぷりつけてかきま

す」と、さすが専門的である。クラブでの楽しみは、何といっても合宿。春休みと夏休みには3泊4日程度で、阿蘇や雲仙へでかける。友達との話らいやキャンファイヤーで部員の親睦が一層盛り上がる。

書道歴は、各人まちまちで、永い人は小学1年生から。しかし初心者も半数位と多く「上手下手は関係ありませんよ。皆楽しんでおけいこしています」と、部長の隣に居た金丸泰子さん(大学食物栄養学専攻2年生)は語る。

書道部のモットーを尋ねると「もちろん書枝の向上、それに日本の伝統芸術を継承し、現代芸術としても世界へ仲間を広げたい」と夢は大きい。最近、書道を学ぶ人は日本人ばかりでなく外国人にも多いと聞いている。彼女たちの筆先は世界へと向いている。

## セミナーハウス いよいよ着工

佐賀県佐賀郡富士町の北山ダム湖畔に建設が進められているセミナーハウスは、用地の造成工事が終わり、二月十九日の起工式をもって、いよいよハウス本体の建築に着手した。

起工式には中村理事長、倉恒学長をはじめとする学園関係者、および来賓として富士町の岩井町長ら八十人が参列した。当初の計画より約一年遅れての着工となっただけに、関係者は無事この日を迎えたことを喜びあっていた。

セミナーハウスの敷地は三万三千四百四十四㎡(約二万坪)。ここに研修棟、食堂棟、体育館棟の主要施設(延床面積五千三百八十八㎡)が建築されるほか、外部施設として、当面はキャンプファイアー場とポートハウスが造られる。

研修棟には宿泊室十八室(和室九・洋室九)が設けられ、百四十四人が宿泊できるようにになっている。

このセミナーハウスは平成四年三月に完成予定で、四月からは各種研修会やゼミ・サークルなどの合宿等に使用できる。



完成予想図

## ちよつと インタビュー

秋山 由佳さん

横顔

県立佐賀北高校出身。平成二年三月に食物栄養学科食物栄養学専攻を卒業後、佐賀銀行に入社。業務部企画課に配属され、五月から取り組んだ主婦専用カードローン「キッチン」は大ヒット。「このことなら彼女に、と人から聞かれるような必要とされる存在になりたいですね」と語る活動的で明るい女性。

入社のきっかけは地元でぜひ就職したいと考えていたところ佐賀銀行で四年制大学生の採用数が多いと知り、応募しました。食物栄養学科出身で畑がいたとは思ったのですが、いろいろな分野からの人材を採用しているという銀行の思わくもあったのか、首尾よく合格できラッキーでした。

今の職場では、いろいろなイベントもあり、きまりきった仕事を



パターン通りこなしていくというのではなく、毎日同じ仕事がないくらい、いろいろな経験させていたいです。

新商品企画の苦労話など入社してすぐ企画課に配属され右も左もわからないまま新商品の企画にたずさわることになりました。法律や経済の知識など全く無いといっているくらいでしたので一つ一つが全て勉強という感じでした。営業店での実務経験がないので手さぐりの部分も多かったですね。上司や周りの皆さんにぜひぶん助けられ試行錯誤の末、ようやく奥様向けカードローン「キッチン」が出来上がりました。十一月一日から発売されたんですが、幸い好評で内心ホッとしています。ともかく一つの事をやりとげただんだという達成感がありましたね。

後輩に一言

そうですね。仕事をやっていく上で一番大切なのは、人とのおつき合いだと思います。私は学生時代それほど勉強したとは言えませんが、寮生活を経験し団体生活の中で協調性や忍耐ということを学んだと思います。それと真っ当な文章の勉強をしてあげればよかったというところ。自己表現の技術というか相手にわかるように、ポイントを押さえた書き方、話し方がとても必要だと感じました。

## 中国から視察団

歳の瀬も押し迫った十二月十一日、中華人民共和国遼寧省から日本の大学における栄養教育のあり方と近代的な設備で効率的な生産を行っている食品関係企業の視察を目的に、同省食品工業協会の劉春正理事を団長とする一行五名が来学した。

これは、以前本学の客員研究員として来日された同省基礎医学研究所の張春元助教のお世話によるもので本学が全面的に協力した。中国は、近年国民の健康維持増進のために栄養指導に力を入れはじめたこと、また食品工業の近代化のために日本の企業を参考にしたいとの意向から、今回の来日となった。一行は十一日間の福岡滞在で、本学で栄養指導実習などを視察するとともに、学園関係者の案内により、ロイヤル、糧友、食品加工団地、ヤマエ久野、大塚製薬、北九州コカコーラボトラーズ、ハウス食品工業、九州アサヒビール、一番食品などの工場や研究所を視察。また久山町住民の糖尿病教室見学や福岡県食品産業協議会の役員の方々と懇談されるなど、大変熱心に日程を消化された。年末の最も多忙な時期の視察であったが、快く受け入れて下さった企業、団体の関係者の皆様には心から感謝したい。

## 学園回想 (7)

### 大学の開学、その後

学校法人中村学園理事長 中村久雄

前号で述べたように文部省の認可を得るにはいろいろと苦労があったが、昭和四十年四月、中村学園大学はめでたく開学した。食物栄養学科、児童学科とも定員を若干上回る程度の第一回生を迎え入れ、まずまずのスタートを切った。その頃の学校周辺は淋しいもので、校舎と云えば現在のキャンパス東側にボツンと一棟(現東二号館)あるだけ、前面の道路は狭くてバスがやっとすれ違う程度、雨が降ればたちまちぬかるみに変わるという始末、今日ではとても想像がつかない。

さて、食物栄養学科は発足当初から管理栄養士制度に関するところで一つの問題を抱えていた。実は昭和三十七年、栄養士法一部改正により、従来の栄養士よりさらに高度の複雑困難な栄養業務に携わる管理栄養士の制度が発足していたのである。ところがいざ、どのような大学を管理栄養士養成校として指定すべきかという段階で意見が分れ、決論が出ず延び延びになっていた。中には、管理栄養士養成校は大学栄養学部に限るべきだ。家政学部食物栄養系学科は除くべし、という強い意見もあつた。

では気骨の折れる仕事であった。食物栄養学科はその後定員増を図り、両専攻とも入学定員それぞれ50名となり今日に至っている。

当時のことこんな笑い話がある。私は前述の管理栄養士対策協議会のメンバーとして、また本学の用件で頻りに文部省に出入りしていた。お蔭で説田大学課長(当時)とは冗談も言えるような仲になっていた。ある時説田課長いわく、中村先生、この頃あなたの顔を見ると管理栄養士に見えるようになってきた。会う度に私が管理栄養士云々と切り出していたからである。私も負けずに「それはそうですよ。私はもともと管理職にあるええ養子(実際私は中村ハルの養子)ですからね」とお互い大笑いになった。まるで下手な博多仁輪加である。



開学当時の大学校舎(現東2号館)

昭和四十六年九月、創立者であり初代理事長、学長の中村ハルは偉大な足跡を遺して八十七歳の生涯を閉じられた。そのあとを受けて私が二代目理事長に就任。又暫定的に学長を勤めた。昭和四十七年四月からは原俊之先生が学長に就任された。原俊之先生は九大教育学部長も歴任され、いわゆる教育界の大御所的存在であった。中村学園とは以前から

関係があり、理事会としても、低迷気味の大学児童学科の浮揚を図るには最適の方として学長就任を懇請したのである。

原学長就任後は、学園経営の好転もあり、児童学科の内容は見違えるばかりに充実し、入学志願者も段々ふえてきた。昭和五十年度からは入学定員を50名から100名にした。漸く明るい曙光が見え始めた。その頃、私は他大学の児童学科を調べているうちに、小学校教員養成コースに人気を集めていることに気付いた。このことについて学内で研究し手付けたら如何かと堤言したが、いるいるの都合で一向前に進まなかった。昭和五十三年になりようやく児童学科の専攻分離の準備も整い、翌五十四年度から「児童学専攻」、「児童教育学専攻」の二専攻に分離された。当時九州地区の四年制私立大学で小学校教諭一級免許が取得できる学科を設けているのは本学だけであった。そのため志願者も急激にふえ、かなり優秀な学生が、また男子学生も多数入学するようになった。

当時の学生はすでに小学校現場で大いに活躍し、秀れた実績を挙げている卒業生も多いと聞いている。まことに喜ばしい限りである。



### ハル先生との思い出



食物栄養学科・食物栄養科 教授 小林 寿

私は中村学園大学が開学した昭和四十年から二十六年間勤務し、そのうち約六年間をハル先生の下で勤めました。まず、女子高校の校長室で末松教頭立会いのもとハル先生の採用面接を受けましたが、先生は私の歳がわからず尋ねられ、「四十二歳です」と答えましたと云う。ニッコリされて「それならまだ三十年は動められますね」と言われたのが印象に残りました。後で末松先生から「私より先輩かと思った」と言われ、また就任後は時々、高齢の初代食

### 学園の思い出



食物栄養学科・食物栄養科 教授 横田 春子

思えば長いようで短かった二十三年間でした。中村ハル先生の「ぜひ来て欲しい、今度つくった家政科の為に」とのお電話に、「もつ四十歳も半ば過ぎております。暫く考えさせて下さい」と申し上げましたところ、「私は六十歳を過ぎてからこの学園を創ったのですよ、四十代はまだ働き盛り。何を躊躇していますか」と逆に励まされました。再度のお誘いとお励ましによりこ

### 研究室から

家政科 江上一子ゼミ 教授



江上ゼミは、食物を中心テーマにしています。30名前後のわりあい大世帯で、食べることが大好き、そして作ることに興味をもっている者ばかりが集まり「ワイワイ、ガヤガヤ」とにぎやかに楽しんでいます。

江上ゼミ最大のイベントは、毎年行われる学園祭の食品バザ。

ゼミ生全員が和料理メニューで参加しています。季節感あふれた栗入り小豆ご飯や、茸味飯、おすしなどを発表しました。これには付合せとして郷土料理の博多め煮や茶碗むしとお清し汁などを手わけして作ります。400人から500人分と大量なので目がまわるように忙がしいのですが、学園祭の2日間がすむと「ヤッター」という満足感にひたれます。

このほか、年に2~3回、食品関係企業の見学もしています。将来の調理熟源となるであろう200ボルトの電磁調理器設置の電気会社や、ピル工場、菓子工場などです。

また、植物園での手作り弁当コンテストの出来ばえと味の食べくらべは季節の花を眺めながら楽しいものです。

これからも「美しい食べ心」を大切に、そして楽しむゼミで行きたいと思っています。

物栄養学科長の広畑先生と後ろから間違われるなど、つくづく禿け具合を思い知らされました。次に食物栄養学科二回生の実験中、原因不明の引火事故が発生。女子学生一人が顔面に火傷を負い近くの病院に運びましたところ、ハル先生の鶴の一声で直ちに鳥飼病院に転院を命じられました。先生は直接院長に最大限の治療を要請され、以後一日おきくらいに、足がご不自由にもかかわらずその学生を見舞って下さいました。その甲斐あつて、全く傷跡も残らず全快し安心いたしました。

事故の後始末を終え、お詫びに同じ責任を取りたいと申し上げましたが、全く咎められず、逆に処置に対する労をねぎらわれ、始末書の提出のみでお許しを戴き、誠に申し訳なく感じました。

就任六年後に学位を取得したとき、高知女子大学から強く就任を求められ、また指導教官からもぜひ転任するよう強く勧められました。お断りして定年まで中村に残る決心をしました。この時のハル先生との厚情にむくいたかつたからです。

また、先生は女子学生の躰については「形は心の現れである」というお考えから、服装・教室の清掃等は厳しく指導され、特に教室については勉強する道場だからと常にきれいにすることを指導されました。先生の没後は徐々にたが

が緩んでしまい現在のようになつてしまいました。そこで、私だけでも自分が使わせていただく教室はきれいに保ちたく、以来毎日整理・清掃を今日まで続けて来しました。時には学生に見られることもあり変な先生と思われたかもしれませぬ。しかし、私はハル先生の遺訓を守り、学生に反省してもらいたかつたのです。これだけが残念でなりません。

### 教職生活を 去るにあたって



児童学科・幼児教育科 教授 黒川 混二

昭和六十二年三月に熊本大学を退官し、同年四月中村学園大学に勤務してから今日まで、わずかに四年間の期間でしたが、私の四十数年にわたる教職生活の最後を飾るにふさわしい生活をすこすこができたのではないかと思います。

その間大学当局や教職員の皆様のご援助やご協力、それに若さあふれた学生諸君の真剣な学習態度に支えられて、充実した年月をすこすこができたことを改めて感謝する気持ちで一杯です。

私の担当は図画工作と絵画製作及び図工教材研究などでしたが、学生たちが熱心に自己の作品の制作や研究にうちこむ姿に接し、改

したが、そのうちにこの名称の学会・学部等が全国のあちこちに生まれ、本学が一番先かけてこの名称を用いたことになりました。中村学園の消費経済コースは時代とともにその中身も変り、今では本学の特色ある学科として希望者も驚く程増え、その名を高めるようになり大変嬉しく思っています。「私は六十歳を過ぎてからこの学園を創ったのですよ」とのハル先生のお言葉に支えられここまで勤めさせて頂きましたが、尚八十歳過ぎまで毅然として学生の前に立つておられた先生のお姿を思い、これからの余生を過ごしたいと思っております。

### 心の中のハル先生



児童学科・幼児教育科 教授 石井サチ子

中村学園大学に三十年近くの歳月が過ぎ、この私にもそれに近い日々が過ぎて行つた。その間、日々は総て違つていたはずである。しかし、今日も三十年前もほとんど同じように感じられるとは、何としたことであろうか。

学園の中村ハル先生の米寿のお祝いの時に当時女子高の教頭でいらした、末松先生のご挨拶の中に「白寿まで、どうぞお元気でおいで下さいませよ」とという言葉があった。私はその時、白寿とは九十九歳のお祝いのことであると知った。百の文字の上の一を抜けば白となることから、大変印象深く憶えている。お元気でいらつしやうたハル先生もその後、白寿を待たずにお亡くなりになった。私にとつては、ハル先生がおいでになつた日々の方がはるかに長く、その後は大変短く感じられるのは、それだけハル先生の印象が深く彫みつけられているからであろう。

私は一九八八年の六月から約三ヶ月、生死の境をさまよう病氣を

### 学友会館の 四季に思う



学友会館 主事 藤尾 幸正

桜の開花とともに、学園は、新入生を迎えて、百花開花する。ここから、クラブの新入部員勧誘活動が始まる。思い思いに趣向を凝らして奔走する。一喜一憂の

時が過ぎる。大方新入部員が出揃つたころ、自治会主催の運動会、次いでクラブは夏場に向かつて活動を盛り上げる。体育館に、グラウンドに、学友会館に、元気な声が弾む。活動が酣となったころ、やがて夏休みを迎える。夏休みが明けると、日焼けした元気な姿が戻ってくる。クラブは、一斉に学園祭の準備にとりかかる。

秋は、「学園祭のシーズン」各大学がしのぎを削る。学園祭実行委員達は、準備のため長期合宿に入る。百七十名を超える集団が、委員長を中心に一致協力して、設営する。この間、寒さに耐え粗食に甘んじ、不眠不休で取り組む。友情が芽生え、絆ができる。学園祭に至るこの過程が素晴らしい。

学園祭が終わると、自治会の後期総会、クラブの定期演奏会やクリスマスコンサートで一年間の活動を締めくくる。賑がであつた会館も、急に静かになる。励まし、戒め、そして語らいあつた部員たちが、やがて立派に成長して卒業していく。

喜びと惜別を繰り返している内に、十年間が、アツと言つ間に過ぎてしまいました。この間、多くの方々から交誼のご援助を賜りましたことを心から感謝いたしております。

した。長い療養の、しかも無意識の生活の中で、たびたびハル先生の夢を見た。先生は、夢の中で常に黒いドレスをお召しになって、いつもいかめしいと表情でいらつしやうた。先生のご家族の皆さま方は、その夢の中で、いつも、明るく、笑ひかけていらした。

そんなある日、その夢の中で私の妹が、ハル先生に対して、「学長先生」と申し上げた。しかし、夢の中の先生はそれが大変ご不満で、いかめしいご表情、私が「今は学園祖と申し上げるようになったのよ」と話すと、学園祖は「こりなさい、それつきり遠くへ飛んでいらつしやうた、その後には夢でお会いすることもなくなつた。そして私は今日、死の影すらも見なくなつた。生死の境がそのようなものか、私にはわからない。しかし私自身の何処かに、ハル先生がまだ生きていらつしやうように思えてならない。

# 平成三年度

## 就職指導について

学生課長 久保田 義昭

昨年度に引き続き好調に終わった平成二年度の就職状況と比べ、金利高、湾岸戦争等により経済の好調にも陰りが見え、平成三年度の採用計画は幾分下降気味になるのではないかと予想されています。そのような中で平成四年三月卒業予定者に対する就職指導が、すでに昨年十一月から別表の計画に基づいて行われており、これまでに第一回個人面談、公務員セミナー、適性検査等を終了。現在、四月の第一回就職説明会に向けての準備をしております。

年々早まる就職協定も、平成三年度はさらに早まり、八月一日が企業等の説明および個別訪問開始日と決定され、就職試験が一斉に行われます。そのため、学生の就職活動に役立てるべく、「就職の手引」を中心に履歴書の書き方や礼儀作法についても細かな指導をおこなっておりますが、面接の結果、現時点では明確に進路を決めかねている学生が、まだかなりあるようです。少なくとも専門職志向か一般事務志向かについては決めておいてほしいものです。特に一般事務の場合、先に述べたように八月一日には就職試験が始まるのですから。

そのためには、就職資料室を大

いに活用して欲しいものです。資料室には職種ごとのパンフレットや企業台帳、リクルートビデオなどがあり、たくさん情報の中から必要な情報が正確に、そしていち早く掴めるようになっていきます。

また、相談したいことがあればいつでも担当者のところへ来てください。できる限りのアドバイスを致します。

本学の就職の特色は、教員や栄

養士など、免許・資格を生かした専門職への就職が多いことがあげられますが、近年は一般事務職への就職も目立って多くなりました。希望の仕事につくためにも意志決定を早急に行う必要があるでしょう。

平成二年度の就職状況については、次号(五月発行予定)でご報告致します。

就職に関する年間行事予定表 (学生課主催分)

月	行 事 項 目	模 擬 試 験
11	第1回就職説明会(大学3年次、短大1年次) 公務員セミナー①	第1回教員採用
12	第1回個人面接 公務員セミナー②③	
1	第1回個人面接 適性検査(クレベリン)	第2回教員採用
2		
4	第2回就職説明会 公務員セミナー④⑤	
5	第2回個人面接 誓約書の提出 就職セミナー 公務員セミナー⑥⑦ 総合就職テスト(事務系)	第1回中級公務員 第1回初級公務員 第3回教員採用 幼稚園教諭
6	就職に関する父兄との地区連絡会 就職セミナー 公務員セミナー⑧⑨ 第3回就職説明会(事務系)	第2回初級公務員 保 母
7	求人票揭示(7/20~) 公務員セミナー⑩ 第3回就職説明会(栄養士・幼保系) 第4回就職説明会(事務系)	
8	企業等個別訪問開始(8/1~)	
9	第4回就職説明会(栄養士・幼保系)	
10	採用内定開始(10/1~)	

## 心に響く剣の舞

学内定期演奏会より

十一月二十九日、多目的ホールにて、『永野哲と打楽器アンサンブルポットベリ演奏会』が開催された。永野氏はおなじみの九州交響楽団のティンパニー奏者であるが、今回はマリンバの演奏も披露していただいた。打楽器アンサンブルとは「叩いて音をだすもの」の妙技。例えば、革を叩く(太鼓)金属を叩く(グロッケン)木を叩く(マリンバ)、他に効果音を出すもの等。音程はなくリズムの楽しさ、面白さですと説明がなされた。この演奏会で興味をひいたものは、楽団員が鉄の柄を切った作られたという非常にシンプルな木片楽器の演奏。この演奏は、リズムとリズムの重なり、音の強弱、微妙な音と音との共鳴があり、聴衆を緊張させた。「トッカータ ウィズアウトインストゥルメンツ」は、楽器を使わない曲。手や足な



ど体のどこか一部を叩いて音を出す、リズム感溢れるユニークな演奏で、古代やアフリカを思い起こさせる。楽団員の一人は、「お金はかからないし、誰でも何処でもできます。楽譜をお貸ししますのでも皆さんもやってみませんか」と、アピール。最後の八チャトリアン作曲の勇壮な「剣の舞」では、打楽器の魅力のすべてを届けてくれた。

## 子どもの心

児童学科・幼児教育科 (7) 助教授 田中 孝志



子どもと会話するのは楽しく、また興味深いものである。この楽しさということについては、一度でも子どもと生活をした人であればわかっているであろう。ただとどしく、よくわからない舌でなんとか自分の意志を伝えようとする様子、あるいは少し大きくなってからは、よく飽きないと思わせるほど次から次へと話しつつづける姿は、十分にわれわれ大人に彼らに対する愛着を抱かせるに足る魅力をもっている。

しかし、子どもの話がもたらすのはそれだけではない。大人の眼から見た時、しばしばまだコミュニケーション能力が不十分であることの証として映る子どものことばは、注意深く観察すると、彼らがどのような世界観をもっているかを教えてくれる貴重な情報源であることがわかる。この意味で子どものことばは興味深い。

たとえば、いくつかの語彙をおぼえはじめた1歳代の子どもは、しなは語彙の過汎化という現象を示すことがある。これは、「ボールや月、盆などを一括して「ボール」ということばで表現するような現象のことである。

この現象は、語彙の未発達の結果であるが、同時に、子どもがこれらの事物が「丸い」という共通の特徴をもつことを知覚できており、子どもなりに自分の周囲の世界を積極的に理解しようとしていることなどの現れとして意義づけられることも忘れてはならない。

子どもは彼らを理解するためのがかりをこのような形で与えてくれるのである。われわれもせっかくなのでがかりを見落さない注意力をもつべきではないだろうか。

## 全国保母養成協議会から表彰



「高校一年生のときにはすでに保母さんになるつもりでいました。子供が大好きで幼児教育科を選んだんですが、実習を経験して、やはり自分の選択は間違っていないかったんだと思います」と語るのは鳥巢誠子さん(幼児教育科二年)。

鳥巢さんは全国保母養成施設協議会から会長表彰を受けることになった。これは、保母養成課程を優秀な成績で修め、そして卒業後保母になるものに与えられる。四月からは地元、福岡市(福岡県)の町立保育所で保母になることも決まっております。音楽をたくさん教えられる、いつもニコニコ優しい保母さんになりたいですね」と抱負を語ってくれた。



箏曲部 (12,13 福岡市中央市民センター)

## '90コンサート三景



クリスタルハーモニー (12,16 福岡県勤労青少年文化センター)



マンドリンクラブ (12,8 メルパルクホール福岡)

「一冊の本」を特にとりあげることは、それが私に特に影響を与えた本のことだと思ふ。高校三年の夏休みに市立図書館でフロイドを夢中に読んだことがある。それが私にとって有益であったかどうか疑問に思ふことがある。夢や希望がもてなくて、もっと確実なもの求めてマルクスの唯物的観を読んだが、若い私にはあまりにも現実的で心の糧になることはなかった。

中死を逃られないような状況にあった。鳥井氏は信念を放棄して解放されるが、信念の放棄から自己挫折を経験しなければならなくなる。その挫折から本当の出会いを経験するのであるが、そのことが私にとって一つの救いになったことを思い出す。結局私にとって問題になっていったことは、なにか「必然的」なものであったように思ふ。それが具体的に神の問題であることを自覚して読んだのが聖書である。特に「コリント人への手紙十三章十三節」で「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。そのうちで最も大いなるものは、愛である」と述べられていることが常に心にあり、そのことを考え、自らを実験場としてきたように思ふ。そのような意味で「一冊の本」は「聖書」と言わなければならない。

## 一冊の本 『聖書』

一般教養科 教授 大 関 敏 明

心の問題としてドストイフェスキーやキェルコゲルなどを読み、真剣に悩んだことを思い出す。ある時はニーチェの悪魔的魅力に魅了され、懐疑的であることに酔ったことがある。そんな時、鳥井勝一郎氏の著書に出会い、いろいろな影響を受けたように思ふ。特に鳥井氏は獄中で自分の信念を放棄すれば解放され、命を取りとめることができるが、そうでない場合、獄

中死を逃れないような状況にあった。鳥井氏は信念を放棄して解放されるが、信念の放棄から自己挫折を経験しなければならなくなる。その挫折から本当の出会いを経験するのであるが、そのことが私にとって一つの救いになったことを思い出す。結局私にとって問題になっていったことは、なにか「必然的」なものであったように思ふ。それが具体的に神の問題であることを自覚して読んだのが聖書である。特に「コリント人への手紙十三章十三節」で「いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。そのうちで最も大いなるものは、愛である」と述べられていることが常に心にあり、そのことを考え、自らを実験場としてきたように思ふ。そのような意味で「一冊の本」は「聖書」と言わなければならない。

# 併設校の話題

中村学園女子高校

十二月二十七日、教職員はテレビの画面に釘づけになっていた。第二十一回バスケットボール全国高校選抜優勝大会。今、女子の決勝戦開始のホイッスルが鳴った。そのコートの中にいるのは女子校の選手たち。相手は前評判通りの強さで勝ち残ってきた名古屋短大付属。昨年史上初の三連覇を達成し、四連覇をねらう強豪だ。ゲームは前半を終わって33対33



練習にも熱がこもる (女子高校体育館で)

の同点、名短有利の圧倒的な予想をくつがえすかのような接戦に、テレビの前の教職員も興奮をみ。作戦タイムに的確な指示を与える吉村コーチの姿が頼もしく映る。後半にはいつても一時はリードするなど、ひよつとしたら期待をもたせてくれたが、全日本代表を擁する相手チームの反撃は鋭く66対53のスコアでゲーム終了。惜しくも準優勝となった。

しかし、敗れたとはいえ、選手たちにとって決勝のコートに立たたことは大きな経験となったことだろう。勝つことの喜びと負けることの悔しさを知り、そして、頂点に手が届くところまで来たという確かな手応えをつかんだことは、選手たちを一回りも二回りも大きくしてくれたはずだ。今、部員たちは「今度こそ」の気持ちで胸に秘め、夏の高校総体優勝を目指して厳しいトレーニングに打ちこんでいる。

# ライブラリー散歩 (2)

—NALICS—

平成二年四月オープンした新図書館も早や一年が過ぎようとしていきます。

「連日大盛況」とまでいきませんが一日の延利用者数は平均五百名、試験期間には一千名を超える「満員御礼」となる日もあります。ところで利用者の皆さんは、図書館を上手に利用されていますか？ 今回は、館内の特色ある施設や設備をいくつかご紹介いたします。当館の施設、設備を学習形態に合わせて使い分けることにより、学習効果も一段と高まるでしょう。

と同様に貸し出しもしています。二階のカウンターへ申し出て下さい。皆さんからの資料のリクエストをお待ちしています。

構成	台数
VHS用デッキ	六台
ベータ用デッキ	一台
CD・LDデッキ	六台
カセットテープデッキ	一台
衛星放送受信機	二台
テレビ	二台

AV新刊紹介  
VHS 目で見える臨床検査  
全十巻

CD 世界名曲大系  
全七十四巻

(三) 演習室 (四階)

二室あります。室内は、大きなテーブルに六席が用意されています。黒板もありますので、館内の資料を利用して演習やグループ学習に活用してください。大声でなければtalk, discussionもOKです。申し込みは随時二階カウンターへどうぞ！

(四) 個室 (四階)

室内は机と椅子の二対二室あります。館内の資料を使っての学習・研究も周囲を気にせず一人静かに没頭できるというも



AVコーナー

このシステムは、閲覧管理・図書管理・雑誌管理の三つのサブシステムから構成され、図書館業務のすべてがコンピュータ化されているのです。前号で目録検索の方法をご紹介しましたが、皆さんも検索用端末機を使って、NALICSを動かしてください！

## TOPIC

『NALICS』から愛をこめて！  
本学図書館のコンピュータシステムの愛称が決まりました。NALICS (ナリックス) です。どうぞよろしく！  
NALICSとは



希望に燃え入ってきた君  
挫折しそうな時、友は傍らに居た  
青春の真只中  
琥珀色の光がつつみ  
新緑の陽炎の中を  
君は羽をつけて飛んでいく！

平成2年4月

- 4日 入学式 (大学生二百六十五名、短大生八百一十一名、計千七十六名が入学)
- 6日 新入生オリエンテーション (7日)
- 7日 在学生オリエンテーション
- 9日 講義開始
- 16日 新入生宿泊研修 (21日)
- 5月
- 1日 大学院入学式 (五名入学)
- 2日 大学院入学オリエンテーション
- 7日 大学院講義開始



西1号館が完成

- 12日 第一回リーダー研修会 (13日)
- 就職に関する父兄地区連絡会開始 (九州各県および山口県の10会場) (6月16日)
- 16日 学園創立記念式典
- 17日 学園創立記念日
- 20日 新入生歓迎運動会 (大学・短大友自治会主催)
- 26日 日本家政学会第42回大会が本学を会場に開催 (27日)

6月

- 8日 大学院開設並びに西一館落成記念式典
- 28日 全日本バレーボール男子チーム公開練習
- 7月
- 14日 前期講義終了
- 20日 前期試験 (31日)
- 8月
- 1日 キャンパス公開
- 就職求人票公開
- 2日 第十七回夏季公開講座 (3日)
- 18日 第一回児童教育懇話会
- 9月
- 3日 コンピュータ夏期講習会 (14日情報処理センター)

# Dramatic 1

—この一年の動き—



夏、前期試験

- 14日 指導主任・副主任研修会
- 16日 父兄後援会地区連絡会開始 (九州・山口の各県十会場) (10月6日)
- 18日 平成三年度大学院入試 (秋季)
- 20日 後期講義開始
- 29日 第二回リーダー研修会 (30日)

11月

- 4日 大学推薦入試
- 9日 大学推薦入試合格発表
- 18日 短大推薦入試
- 23日 第24回霜月祭 (25日)
- 26日 短大推薦入試合格発表
- 29日 学内演奏会
- 12月
- 11日 中国遼寧省から栄養教育・食品生産視察団来学
- 15日 第三回リーダー研修会 (16日)
- 22日 講義終了
- 1月
- 8日 講義開始
- 13日 講義終了

2月

- 21日 後期試験 (31日)
- 31日 山本文夫氏講演会 (RKB毎日放送マーケティング部長)
- 1日 大学一般入試
- 2日 短大一般入試 (食物栄養科 幼児教育科)
- 3日 短大一般入試 (家政科)
- 9日 大学・短大一般入試合格発表
- 15日 大学卒業論文発表 (16日)
- 19日 セミナーハウス起工式
- 3月
- 5日 大学院入試 (春季)
- 15日 卒業式 (大学生二百六十五名、短大生七百九十六名が卒業)
- 16日 大学謝恩会 (全日空ホテル)
- 18日 短大謝恩会 (ホテルニューオータニ)

## ヒマラヤからの便り

「今、エベレストの麓、ネパールにいます」との便りを、前田文敏氏 (元法人本部総務部長) からいただきました。氏は根っからの山好き。退職後はカナダ、ニュージーランド、スイスと世界の山旅を続けておられます。

そして、雄大な自然の中で短歌をひねるのを無上の楽しみとする粹人でもあります。お便りに添えられた中からご紹介いたします。

○重き荷を額にかけて登りゆく裸足のシェルバを倦かず見てお

り  
○仰ぎみるアンナプルナの白雪に真紅に映えるシャクナゲの花

## 編集後記

▽中国の視察団の方に、日本のことをいろいろ尋ねられ、案外説明できないことに愕然とした。国際化と言われる今日、とかく目が外に向きがちであるが外国の方との交流には、まず自国の文化をしっかりと認識しておく必要があると痛感した次第。▽別れ、そして新しい出会いの予感。万物のエネルギーの息吹きを感じさせる季節——春今年も笑顔の素敵フレッシュさんにとたくさんお目にかかりたいものである。